

りょっ か すい しん だん たい 緑化推進団体

1986（昭和61）年4月に施行した「草加市みどりの条例」に基づき、緑化の推進、みどりの保全に協力する市民団体の総称。主な活動は、樹木等の植栽、除草・清掃、施肥・灌水、病中害の駆除、整枝・支柱の設置など。2008（平成20）年4月現在で、38団体。市では1団体年間最大で10万円の補助を行っている。

〈昭和61年10月5日号・昭和62年10月5日号・昭和63年7月5日号〉

■みどりのまちづくり基金



る れ

るるく

家族や親子でのふれあい、また体力づくりのきっかけとして、クイズやペットボトルボウリングなどのゲームにチャレンジしながら楽しく市内を探索して歩くイベント。正式名称は「ライフ・チャレンジ・ザ・ウオーク」そうかるるく“見る・知る・歩く”。

第1回は1995（平成7）年11月23日に「チャレンジ・ザ・ウオーク95」として開催され、以後毎年同日に開催されている。3kmコースと5kmコースがあり、開催当初は7kmコースもあった。2002（平成14）年に現在の「るるく」に改称された。「るるく」は「見る・知る・歩く」の3文字を用いた造語。

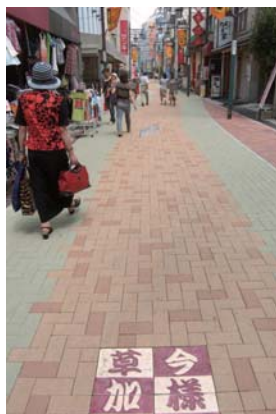
〈平成7年12月5日号・平成14年11月5日号〉

れき し しん さく ろ 歴史散策路

草加駅東口旧町地区から草加松原に至るエリアに、にぎわいと活力を取り戻すために実施されている「今様・草加宿」事業の一環として整備が進められている散策路。草加駅前一番通り商店会通りから歴史民俗資料館、神明あじさい公園、東福寺参道を経て旧道に至る700mの区間。

コミュニティ道路（歩車共存型道路）を採用し、スラロームやクランクの道路形態とすることで車両のスピードを抑制し、歩行者と車が共存できる道路となっている。また、路面付近の温度を下げる効果のある保水性インターロッキングブロックを使用し、環境面にも配慮している。2006（平成18）年度から着手し2009（平成21）年度に完成予定。

■今様・草加宿 東福寺 歴史民俗資料館



れき し しん さく ろ し り ょ う かん 歴史民俗資料館

郷土の歴史資料や民俗資料を収集、保管、展示することによって、教育、学術、文化の発展に寄与することを目的とする施設。1983（昭和58）年11月1日にオープンした。展示室2、収蔵庫2、多目的ルームがある。収蔵品は、丸木舟、土器、古文書、板碑、大川邸のレプリカなどの歴史資料と、農具、せんべい製造具、里神楽の面や衣装、大川家ゆかりの品々などの民俗資料で、合計1600点。

そのうち約150点が常設展示されている。入館は無料。

資料館の建物は、関東大震災後の1926（大正15）年9月、県内の小学校として初めて鉄筋コンクリート造で建てられた草加小学校西校舎を改修したもの。当時としては、時代を先取りした耐震・耐火の近代建物であった。2008（平成20）年9月26日、国の登録文化財として市内で初めて国の文化審議会から有形文化財に登録するよう答申された。

〈昭和58年11月20日号・平成6年6月20日号・平成7年12月20日号・平成14年4月20日号〉

【所在地】住吉1-11-29

【電話】922-0402

■板碑 大川邸 里神楽 指定文化財 丸木舟

レザーフェスタ

草加地域の皮革関連事業者の団体「そうか革職人会」が2003（平成15）年から実施している皮革の一大イベント。

「皮革でつくる、うれしい生活」をテーマに、もっと皮革を身近に感じてもらうと、「めざせアジアのフィレンツェ」を合言葉に第1回か

ら4回までは草加皮革大賞コンテストとして開催され、展示や即売会なども行われた。コンテストでは、革を使ったバッグや手袋、造花などの個性豊かな作品および革製品のデザイン画が、プロ、アマを問わず全国から応募され、その中から革の専門家たちが大賞を決定する。

2003（平成15）年に行われた第1回コンテストでは、全国から皮革製品とデザイン画を合わせ114点の応募作品が寄せられ、大賞には都内在住の高橋康二の作品「革と織りとのコラボレーション」が選ばれた。2007（平成19）年の第5回コンテストでは、デザイン画が初めてグランプリを受賞（都内在住の中垣内泉のイラスト「閉鎖的音空間」）した。2007（平成19）年から「皮革大賞コンテスト」から「レザーフェスタ」に改称した。2008（平成20）年のレザーフェスタでは、歴代受賞者が作る技術の高い作品や、そうか革職人会の職人による新作のほか、高校生と革職人とのコラボレーション作品が展示された。

〈平成15年3月5日号・平成15年3月20日号・平成17年1月1日号・平成20年3月5日号〉

■皮革

